



2012年3月期 決算説明

2012年5月11日



＜本日の内容＞

1. 2012年3月期(2011年度)決算概要
2. 2013年3月期(2012年度)業績見通し
3. トピックス



1. 2012年3月期(2011年度) 決算概要

2011年度 決算のポイント

■利益分析方法の変更

海外事業展開の推進により、営業外損益として計上される持分法投資損益(中国、イギリス、アメリカ)の割合が大きくなったため、利益分析を営業利益から経常利益に変更

■前年度との差異について

売上高133億円減少、経常利益53億円減少

⇒事業環境に恵まれた前年度に比べ、当期は第2四半期以降の急速な状況変化により減収・減益

・欧米財政問題に起因する世界的経済停滞、円高の急速な進行、タイの洪水による需要減、燃料価格上昇、電力問題によるコストアップ等による

■2011年11月4日公表予想との差異について

・売上高、経常利益ともにほぼ見通し通り

・当期利益が税制改正の影響等により▲5億円

■配当

・6円実施予定(期初見通し通り)



2011年度業績(対前年度)

<連結>

(単位:億円)

	10年度 (A)	11年度 (B)	増減 (B) - (A)	増減率(%) (B-A) / (A)
売上高	2,072	1,940	▲133	▲6.4%
営業利益	123	64	▲60	▲48.5%
経常利益	117	64	▲53	▲45.1%
当期純利益	120	35	▲84	▲70.4%

<個別> (ご参考)

(単位:億円)

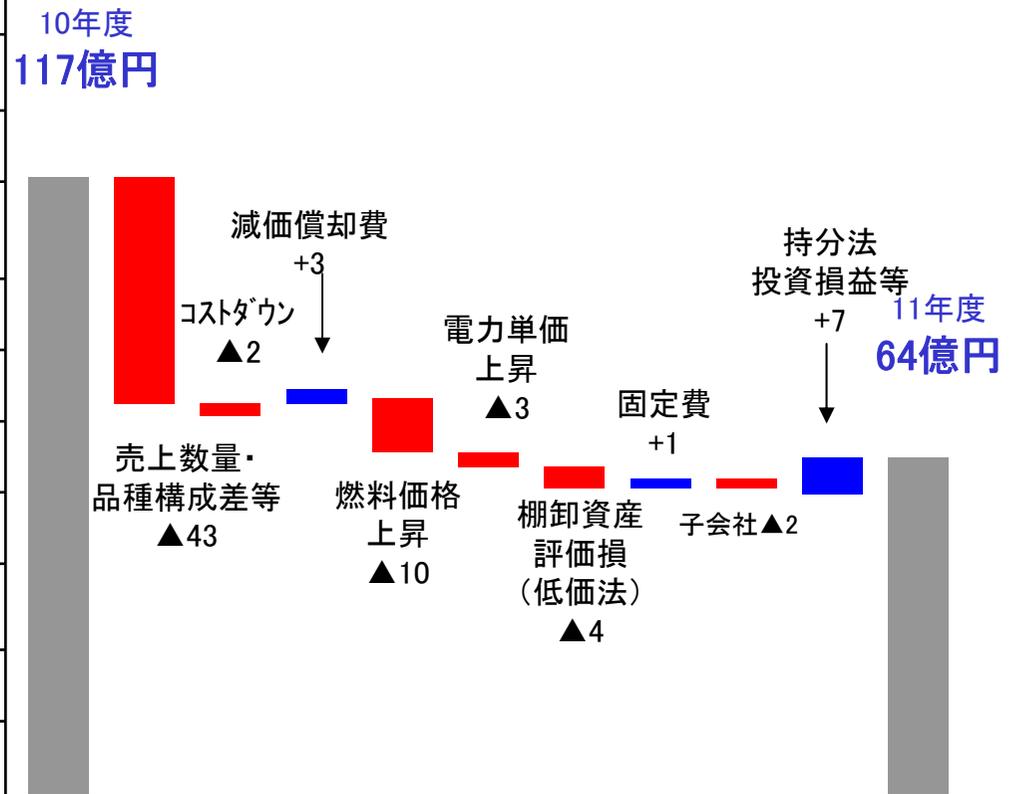
	10年度 (A)	11年度 (B)	増減 (B) - (A)	増減率(%) (B-A) / (A)
売上高 (数量)	1,813 (435千トン)	1,673 (398千トン)	▲140 (▲37千トン)	▲7.7% (▲8.4%)
営業利益	102	44	▲58	▲57.2%
経常利益	92	37	▲55	▲59.7%
当期純利益	103	18	▲85	▲82.3%

連結経常利益分析 (10年度→11年度)

10年度 117億円→11年度 64億円 連結経常利益 増減内訳 (▲53億円)

<単体品種別数量> (千t)

品 種		10年度 (a)	11年度 (b)	増減 (b)-(a)
板	缶 材	127	126	▲1
	箔 地	36	35	▲1
	一 般 内 需	124	109	▲15
類	厚 LNG	0	6	6
	板 その他	28	24	▲4
	輸 出	81	61	▲20
計		395	362	▲33
押 出 計		38	35	▲3
鋳 鍛 計		2	2	0
総 合 計		435	398	▲37





貸借対照表(連結)

(単位:億円)

	11/3末	12/3末	増減
流動資産	1,128	1,027	▲101
現金・預金	47	76	29
短期貸付金 (運用)	176	88	▲88
受取手形・ 売掛金	582	571	▲11
棚卸資産・ 前渡金	252	224	▲28
その他	71	68	▲3
固定資産	1,051	1,103	52
有形・無形固定資産	913	873	▲40
投資その他の資産	138	230	92
資産合計	2,179	2,130	▲49

	11/3末	12/3末	増減
流動負債	882	913	31
支払手形・ 買掛金・ 未払金・未払費用	550	574	25
短期借入金・一年以 内返済長期借入金・ 社債	309	323	14
その他	23	15	▲8
固定負債	598	506	▲92
長期借入金・社債	460	384	▲75
その他	138	121	▲17
自己資本合計	694	706	12
少数株主持分	5	6	0
負債・総資本合計	2,179	2,130	▲49



連結経営指標

	11/3末	12/3末	増減
自己資本（億円）	694	706	12
自己資本比率（%）	31.8%	33.1%	1.3
有利子負債（億円）	769	707	▲61
NET有利子負債（億円）	545	543	▲2
D/ELシオ（倍）	1.1	1.0	▲0.1
NET D/ELシオ（倍）	0.8	0.8	▲0.0
ROE（%）	18.6%	5.1%	▲13.6

※億円未満四捨五入



2. 2013年3月期(2012年度)

業績見通し



2012年度 業績見通しのポイント

■2011年度比 大幅増益

- ・当期純利益 2011年度 35億円 → 2012年度 63億円と大幅な増益
- ・欧米財政問題・円高等の影響は残るものの、年後半に向けて景気は緩やかに回復すると想定

■主要製品の需要動向

自動車関連、LNG向けは期初より好調だが、2Q以降ハードディスク、C/Wが回復、3Qより液晶・半導体向け厚板、コンデンサーの回復が見込まれ、期を追うごとに着実に数量増となる予想

■コスト影響

・構造改革の推進

製板事業構造改革を着実に遂行し、強靱なコスト構造を構築

12年度効果見込み+6億円、13年度+20億円

- ・燃料・電力単価の上昇
- ・減価償却費の減少

■海外持分法子会社の利益貢献が増加



2012年度業績見通し

(単位:億円)

	11年度 (A)		12年度見通し (B)			増減 (B) - (A)	
	上期	下期	上期	下期			
売上高	1,940	1,008	932	1,940	946	994	0
営業利益	64	51	13	82	30	52	18
経常利益	64	48	16	92	36	56	28
当期純利益	35	28	8	63	24	39	28

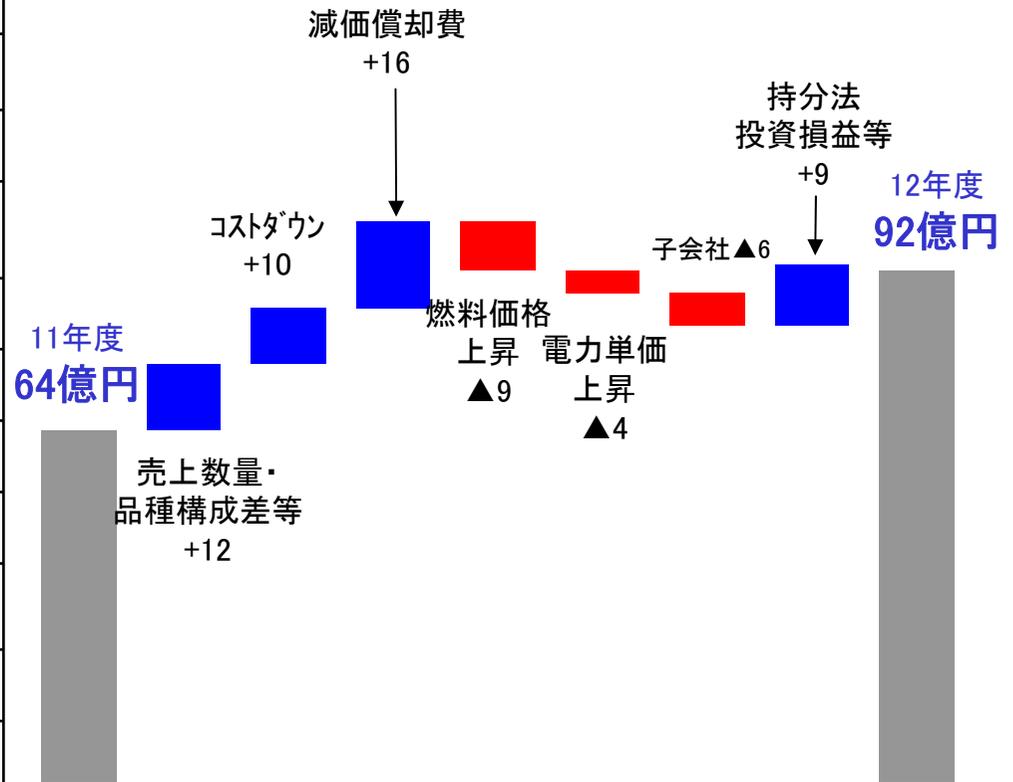
諸元 ; 原油(ドバイ) 115US\$/B, アルミ地金 220円/kg, 為替 82円/US\$

連結経常利益分析 (11年度→12年度見通し)

2011年度 64億円→2012年度 92億円 連結経常利益予想 増減内訳 (対前年 +28億円)

<単体品種別数量> (千t)

品 種		11年度 (a)	12年度 (b)	増減 (b)-(a)
板	缶 材	126	123	▲3
	箔 地	35	37	2
	一 般 需	109	110	1
類	厚 LNG	6	13	7
	板 その他	24	25	1
	輸 出	61	68	7
計		362	377	15
押 出 計		35	34	▲1
鑄 鍛 計		2	1	▲1
総 合 計		398	412	14



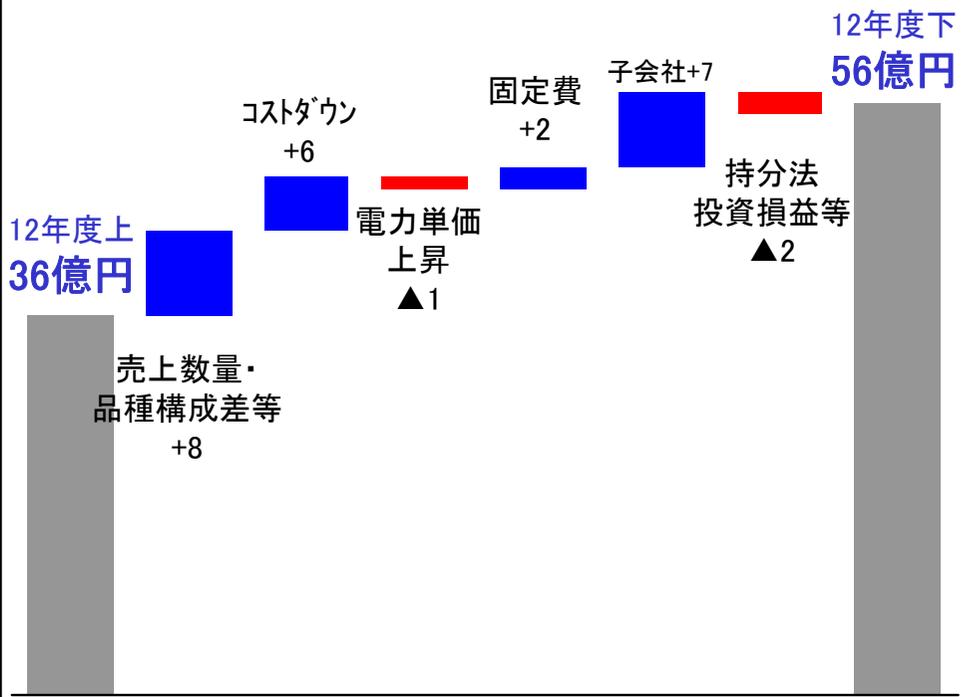


連結経常利益分析 (12年度上期見通し→12年度下期見通し)

2012年度上期 36億円→2012年度下期 56億円 連結経常利益予想 増減内訳

<単体品種別数量> (千t)

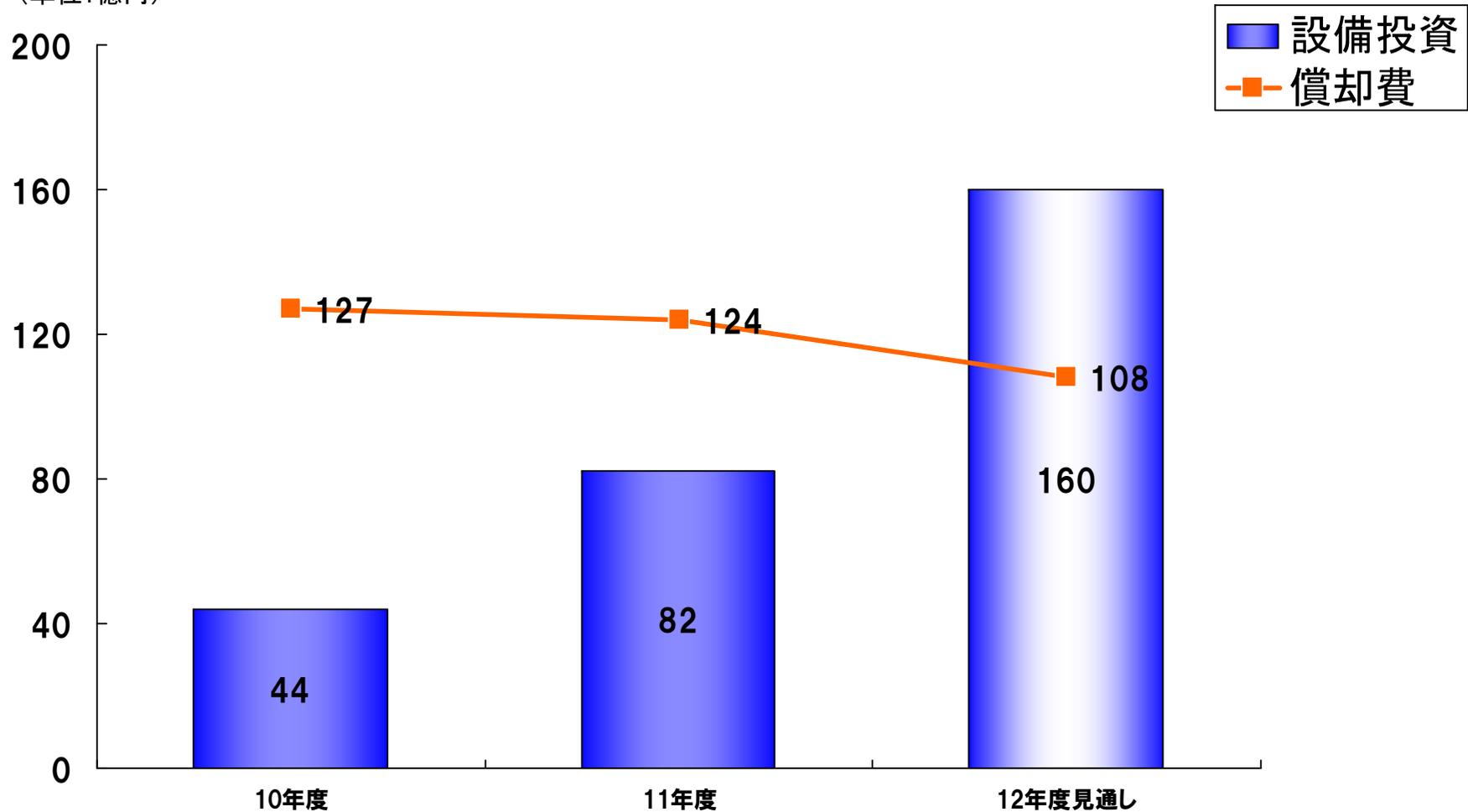
品 種		12年度上 (a)	12年度下 (b)	増減 (b)-(a)
板	缶 材	64	59	▲5
	箔 地	18	19	1
	一 般 内 需	54	56	2
類	厚 LNG	7	6	▲1
	板 その他	11	14	3
	輸 出	31	37	6
計		185	191	6
押 出 計		17	17	0
鋳 鍛 計		1	1	0
総 合 計		203	209	6





設備投資・減価償却費(10年度→12年度見通し)

(単位:億円)





(ご参考)

13/3末 連結経営指標 試算

	11/3末	12/3末	13/3末
自己資本（億円）	694	706	753
自己資本比率（%）	31.8%	33.1%	34.8%
有利子負債（億円）	769	707	656
NET有利子負債（億円）	545	543	593
D/ELシオ（倍）	1.1	1.0	0.87
NET D/ELシオ（倍）	0.8	0.8	0.8
ROE（%）	18.6%	5.1%	8.6%

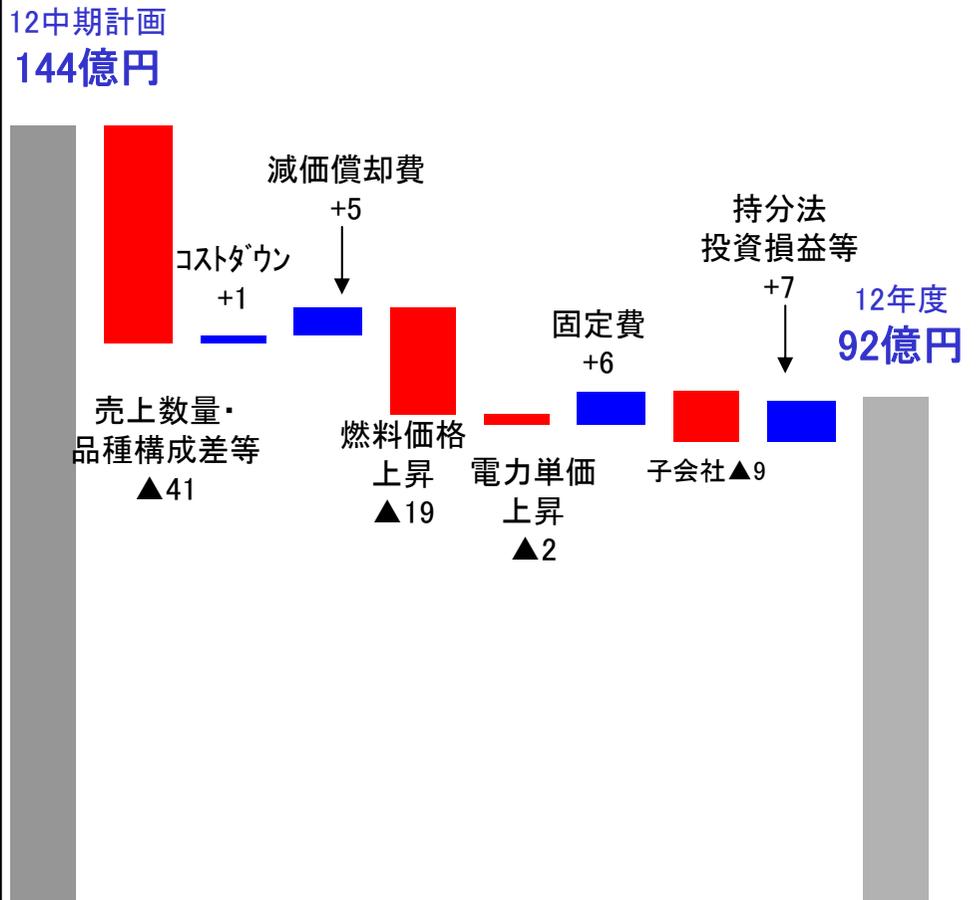
※億円未満四捨五入

連結経常利益分析 (2012年度中期計画→12年度見通し)

2012年度中期計画 144億円 → 2012年度 92億円 連結経常利益予想 増減内訳

<単体品種別数量> (千t)

品 種		12中期計画 (a)	12年度 (b)	増減 (b)-(a)
板	缶 材	117	123	6
	箔 地	36	37	1
	一 般 内 需	130	110	▲20
類	厚 LNG	16	13	▲3
	板 その他	24	25	1
	輸 出	86	69	▲17
計		409	377	▲32
押 出 計		36	34	▲2
鋳 鍛 計		2	1	▲1
総 合 計		447	412	▲35

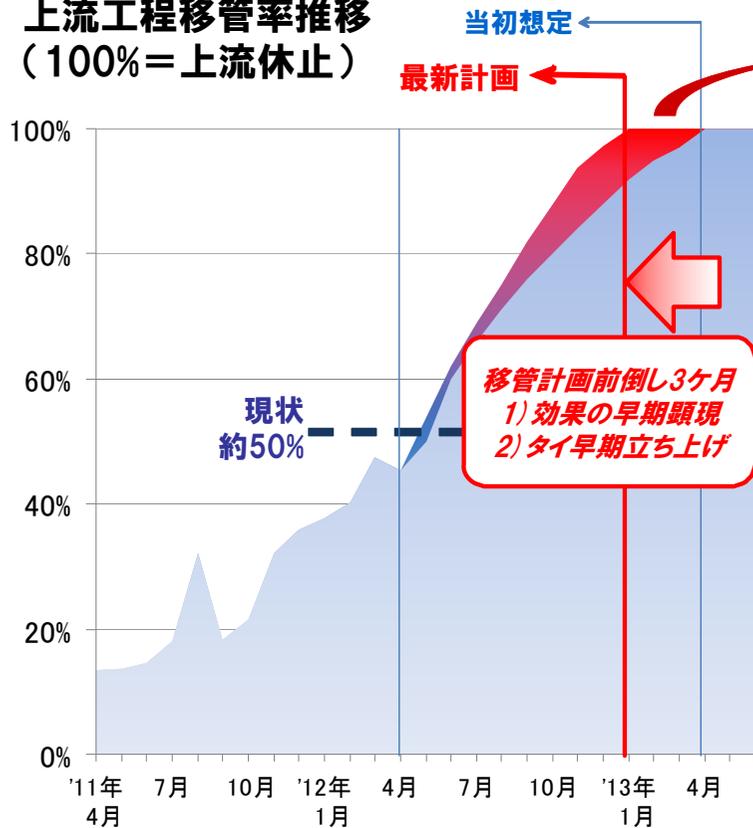




3. トピックス

①構造改革推進と海外展開の加速

日光工場
上流工程移管率推移
(100%=上流休止)



※12年5月以降は予想

- ✓ 構造改革完了までは二重操業が収益圧迫要因となり、早期移管が肝要。前倒しで進め、12年12月に上流休止。
- ✓ 12年度以降は効果が顕現（12年度効果＝約6億円）
13年度は大幅改善の見込み

タイ新工場への休止設備の早期移設と操業開始



タイ新工場（FSTH）
（ラヨン県アマタシティ工業団地内）

2012年3月 建設開始

2014年1月 操業開始を目指す

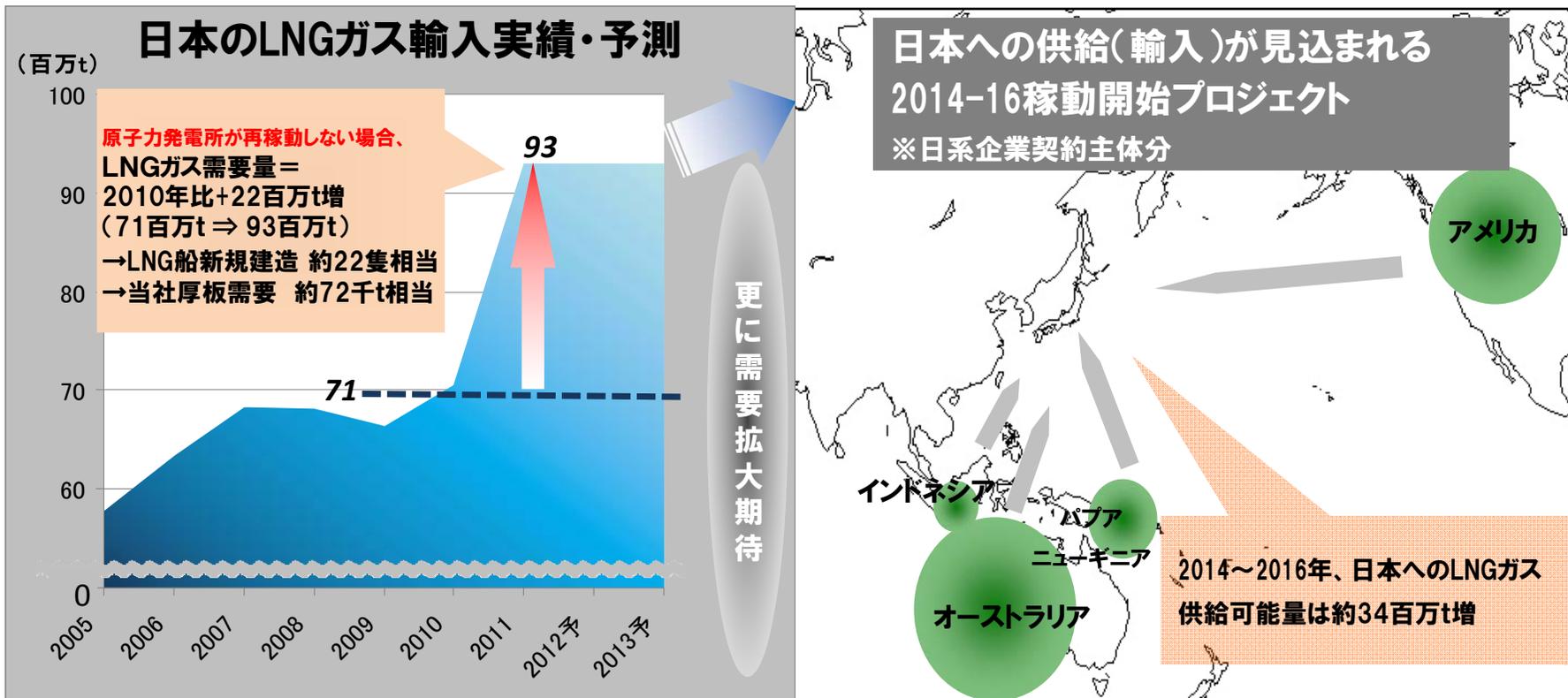
缶エンド・自動車熱交材等優位品製造

成長市場への拡販を目指し、更に、
押出・鋳鍛・箔等も含む複合基地
化を検討する

②当社優位製品の状況 — LNG船向け厚板 1

■LNGガス需要増への期待

- ✓ 原発問題からの電力不足⇒発電ソースの多様化＝火力発電稼働増
- ✓ LNGガス需要量2010年比 22百万t 以上増加見込み
- ✓ シェールガス開発による国際的なLNGガスの供給不安解消



出典:「日本総研リサーチ・アイ(2011.8)」を基に古河スカイ作成

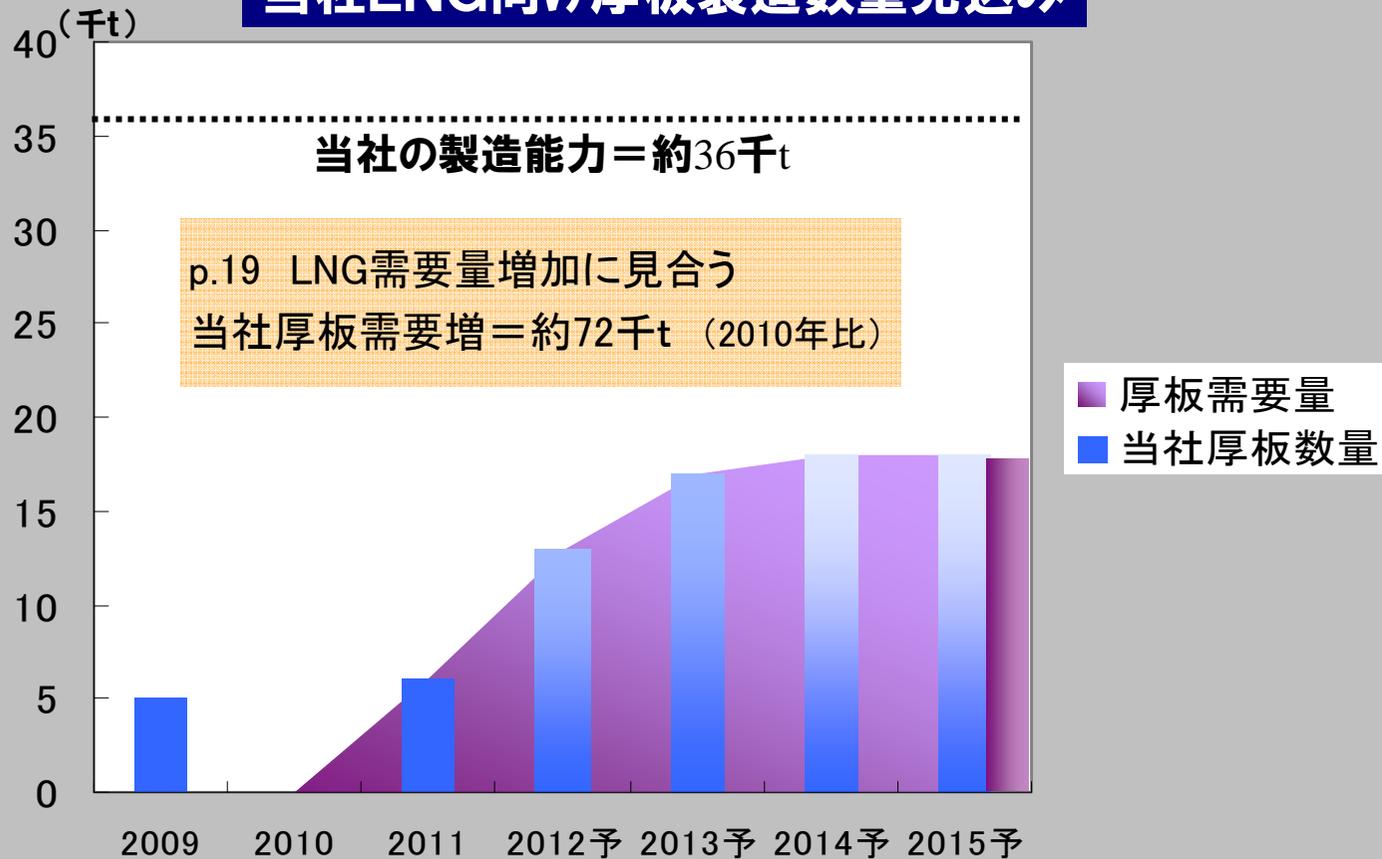
出典:「LNG年鑑2011」および日本経済新聞記事を基に古河スカイ作成

②当社優位製品の状況 — LNG船向け厚板 2

■今後の当社LNG船向け厚板製造見通し

- ✓ LNGガス需要急増
→LNG船新規建造増大、当社LNG向け厚板需要も急拡大
- ✓ 当社厚板生産体制は問題なし

当社LNG向け厚板製造数量見込み



③当社優位製品の状況 — 液晶半導体製造装置向け厚板 1

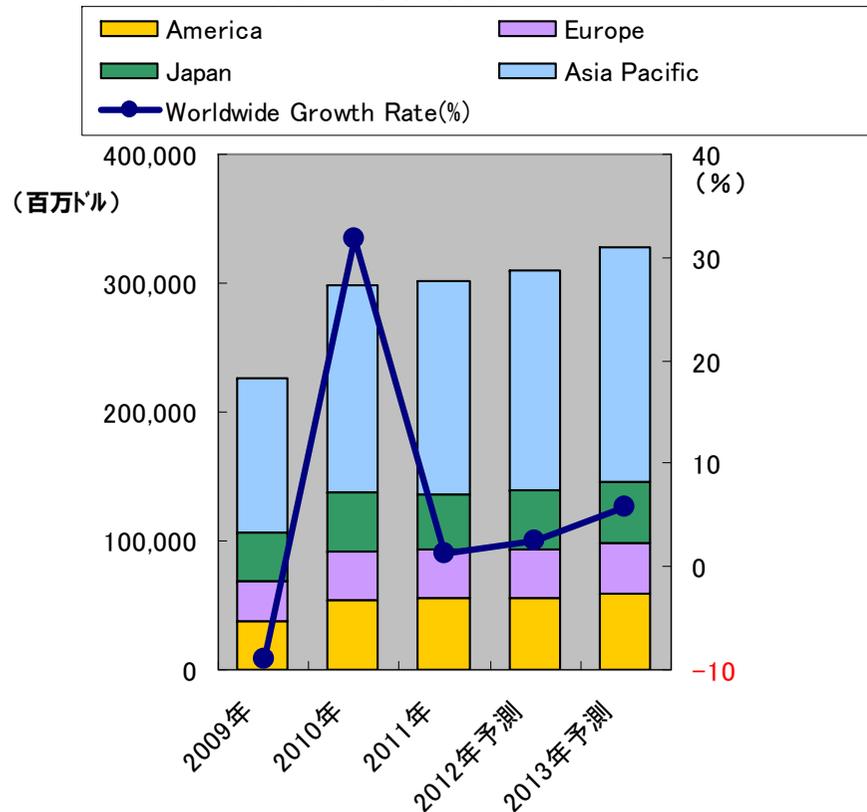
■世界半導体需要

米欧経済、日本経済の緩やかな回復により、
2012年より回復の見込み

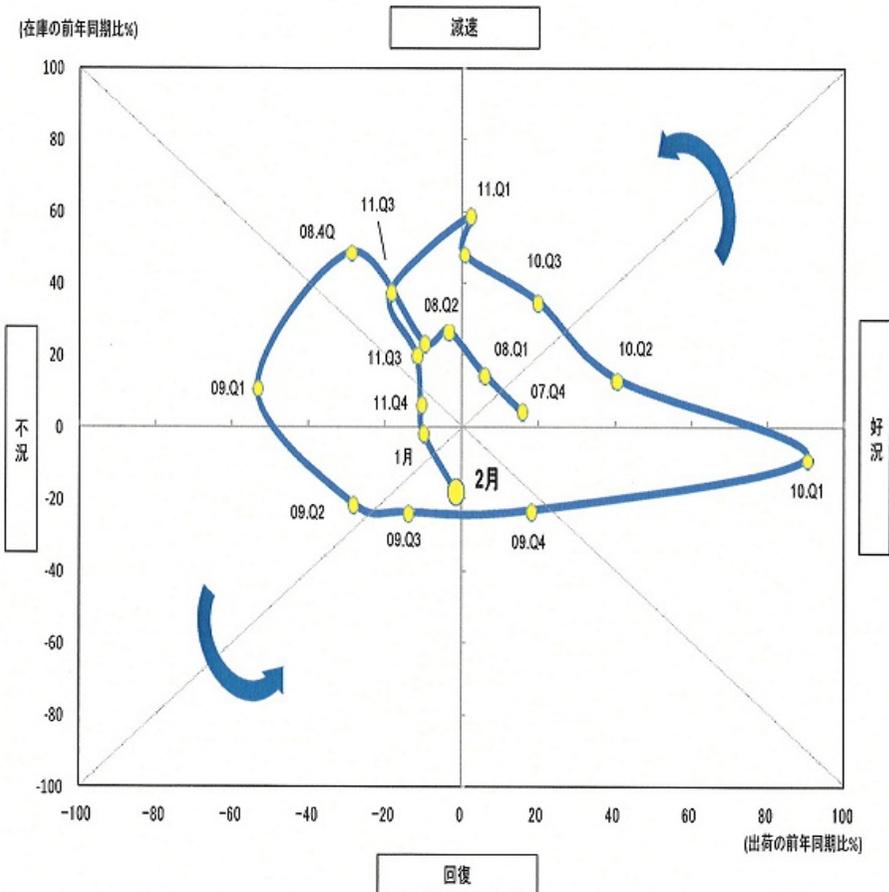
■日本国内半導体（出荷・在庫）

出荷・在庫循環サイクルも
2012年度は回復に向かう見込み

世界半導体需要予測



出典:WSTS「世界半導体市場統計 2011.11」



出典:野村証券(株)「野村テクマンスリー2012.4」

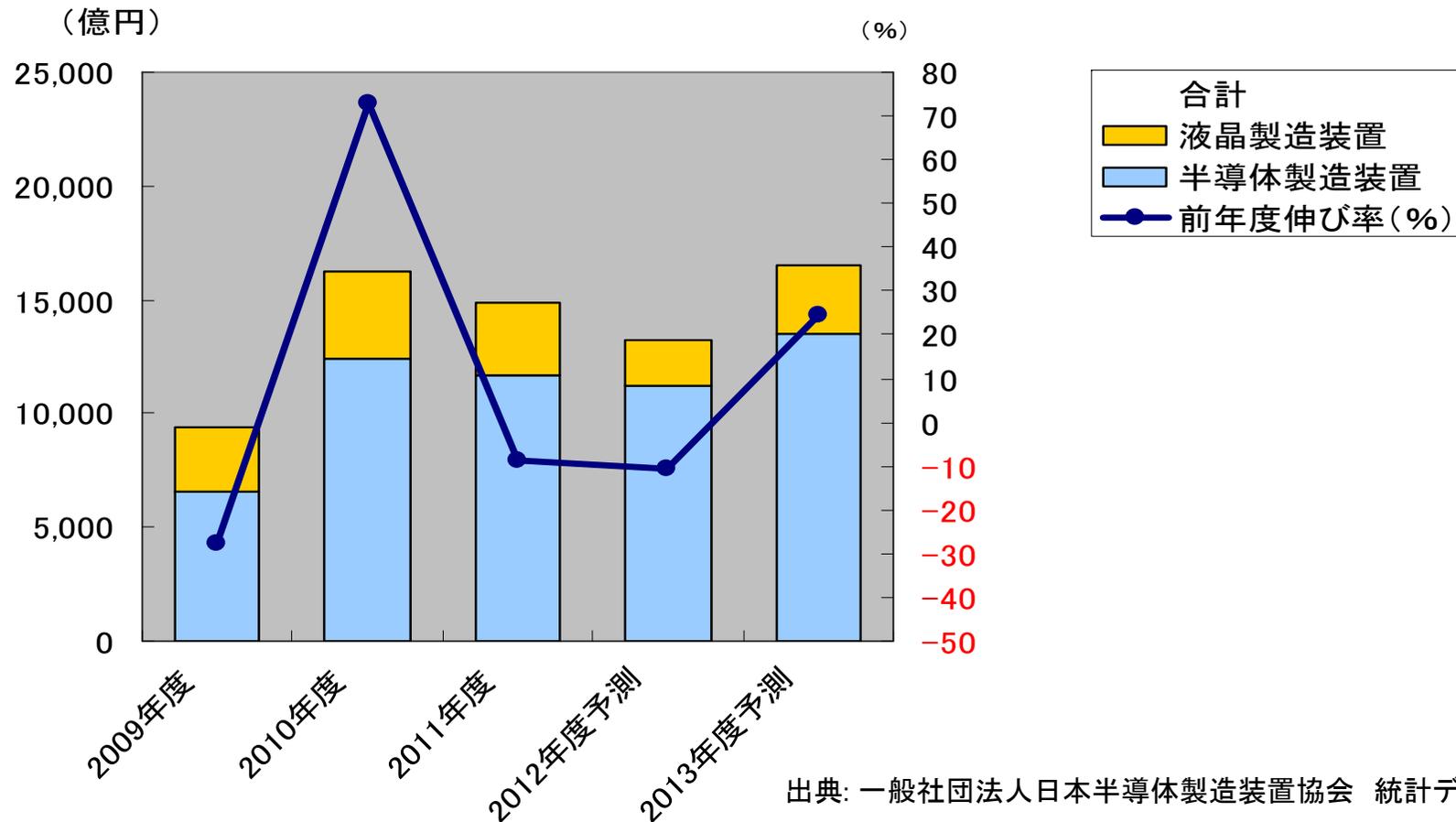


③当社優位製品の状況 — 液晶半導体製造装置向け厚板 2

■日本製 液晶・半導体製造装置販売

世界半導体市場の伸び等を背景に、2013年度製造装置は前年比+24.5%の大幅増が見込まれる。

日本製半導体装置及び液晶製造装置 販売(出荷)予測



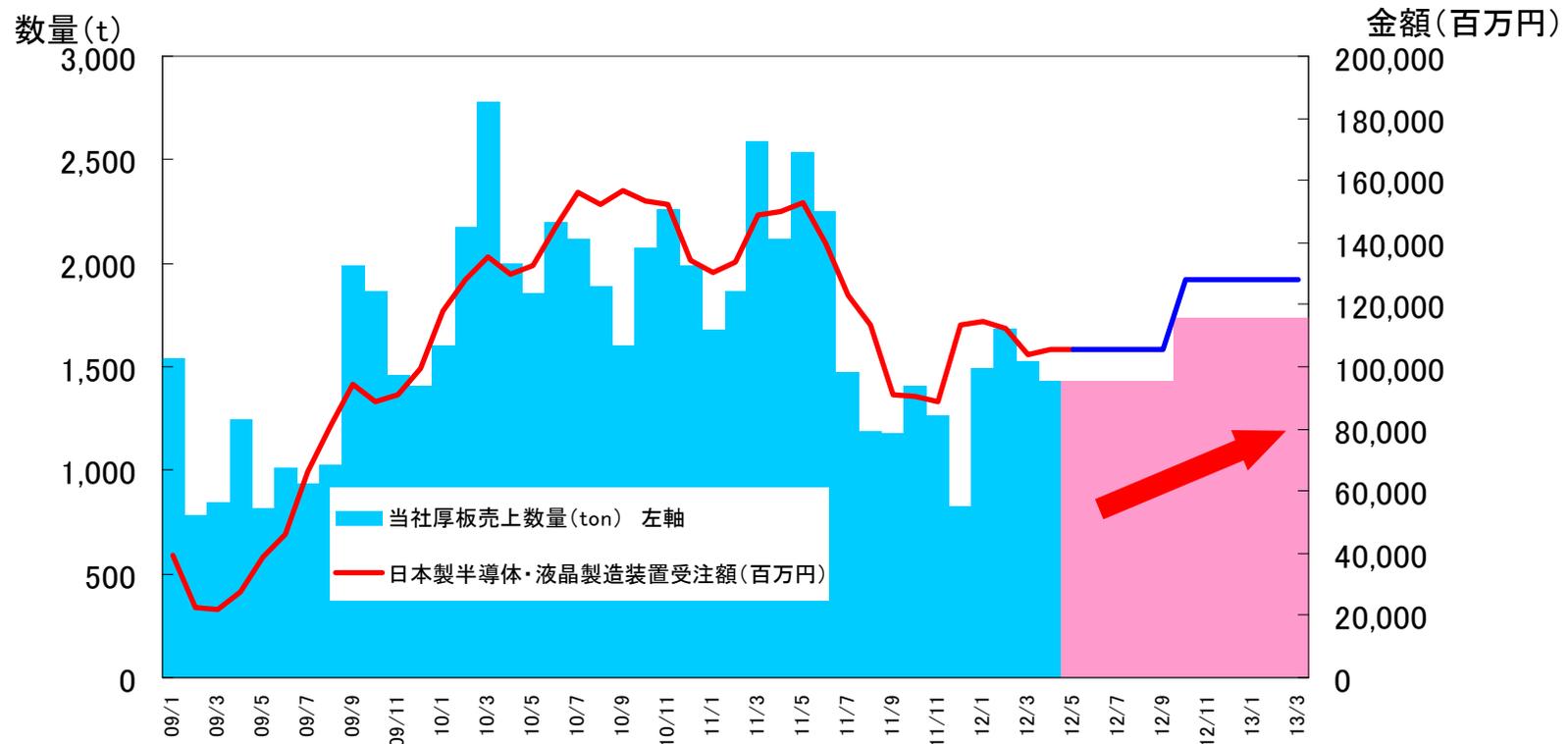
③当社優位製品の状況 — 液晶半導体製造装置向け厚板 3

■当社 液晶・半導体製造装置向け厚板需要

2013年度、製造装置販売大幅増の見込み(前年度比+25%)

⇒ 当社における液晶・半導体製造装置向け厚板の売上也2012年度下期から増加する予測

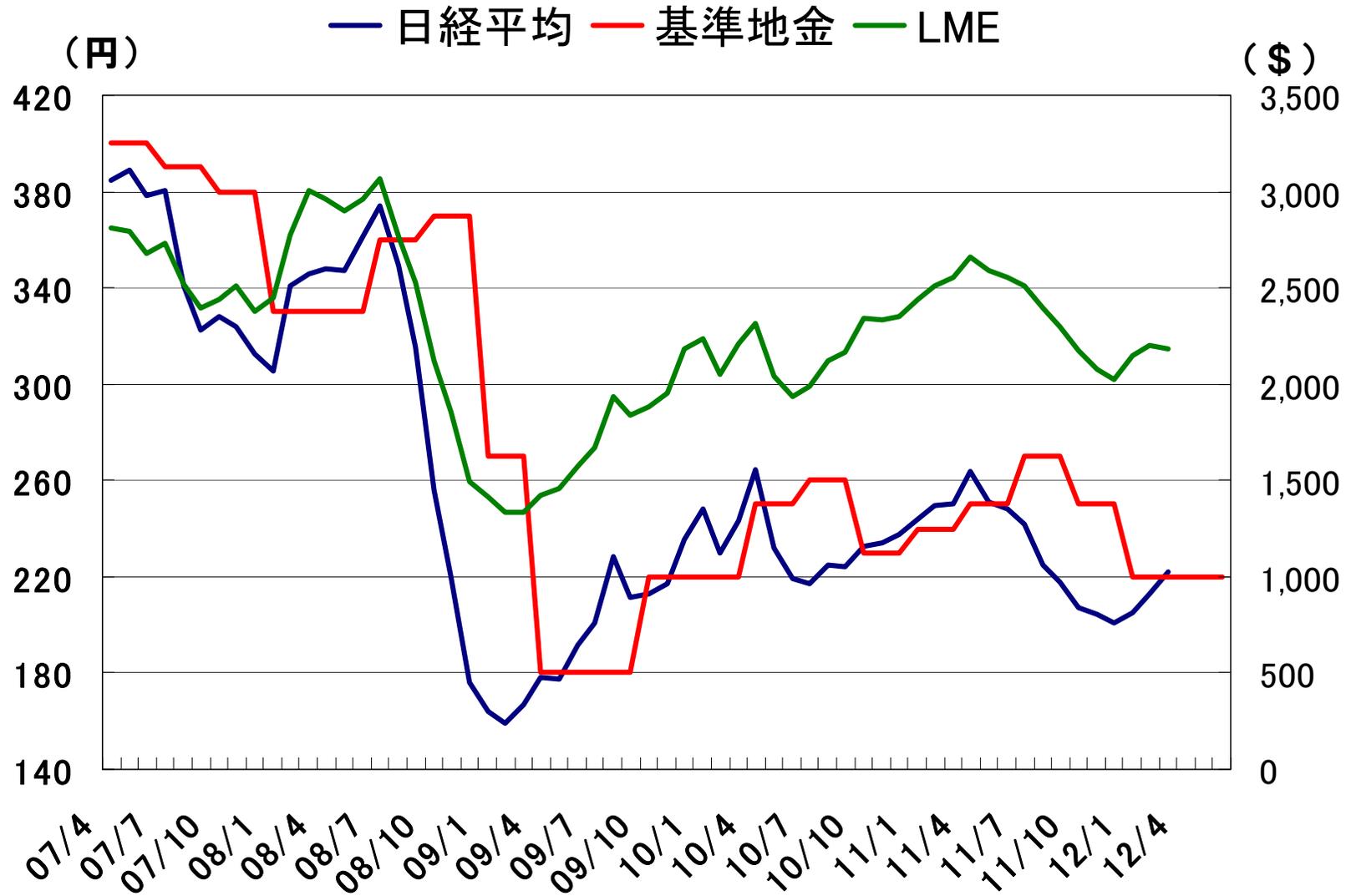
日本製液晶半導体製造装置受注金額と当社厚板売上数量



出典：一般社団法人日本半導体製造装置協会 統計データを基に古河スカイ作成

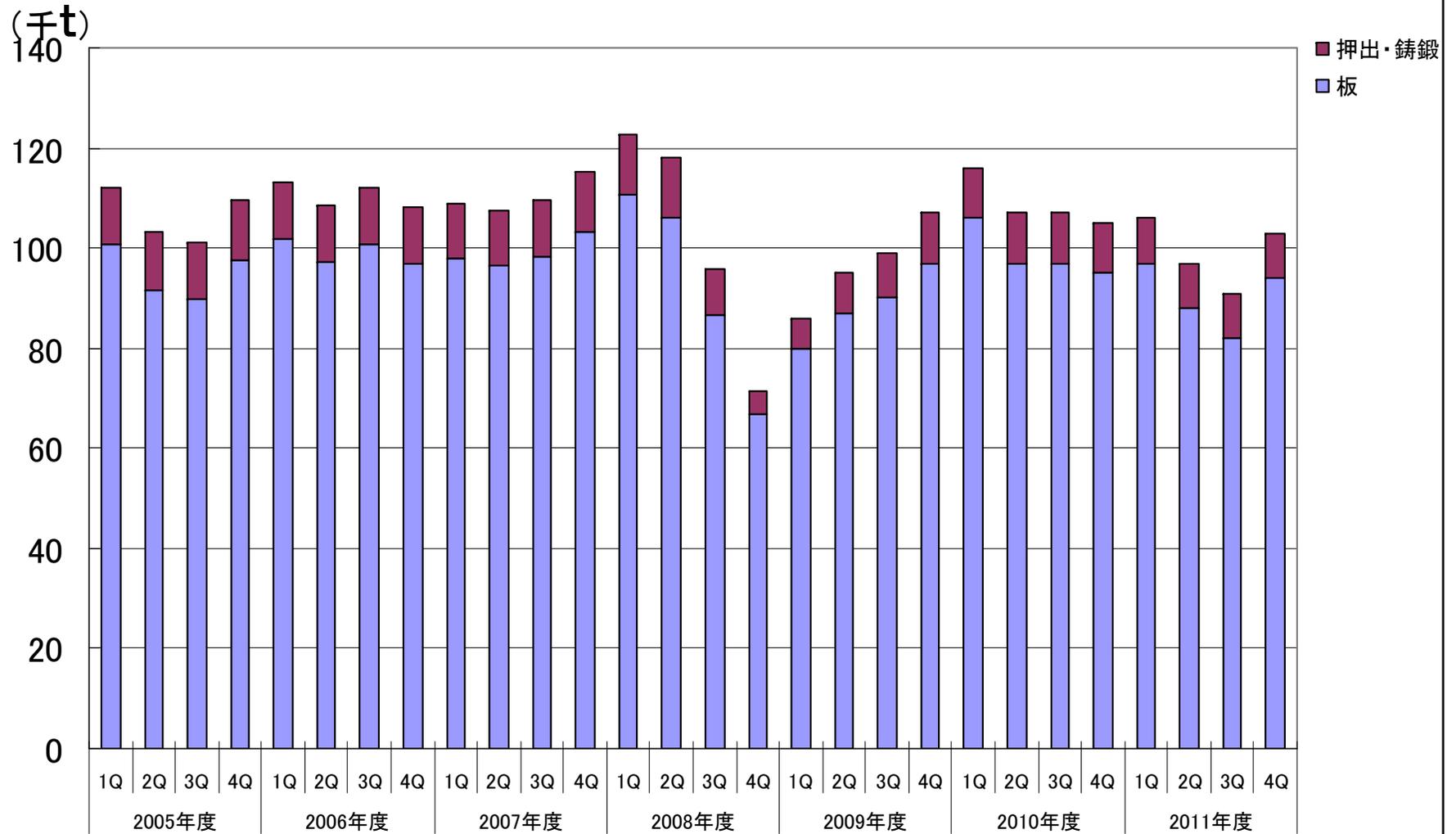
参考資料

アルミ地金日経平均、基準地金、LME推移



参考資料

数量推移 (2005年度～2011年度)





■ 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは今後様々な要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おき下さい。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

■ 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河スカイ株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

■ 本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報・IR室 TEL:03-5295-3800 FAX:03-5295-3760

ホームページ:<http://www.furukawa-sky.co.jp>
(東証1部 コード番号:5741)